

平成26年度第1回 上越市（高田地区・直江津地区）中心市街地活性化協議会
議 事 要 旨

日 時： 平成26年7月16日（水）13:30～14:05

場 所： 上越商工会議所 3階大ホール

出席者： 委員29名（委員総数53名）

委員外3名（オブザーバー2名、服部アドバイザー）、事務局5名

議事要旨： 下記のとおり

1. 協議会会長あいさつ

- イレブンプラザとあすとぴあ高田の2核が開業して1年が経過した。これからが活性化の本番と考える。
- 今年は、高田開府400年祭など中心市街地で多くのイベントが行われており、街の賑やかさを増している。一方で、イベントのない時の状況をどうやって立て直していくか課題となっている。
- 中心市街地を住みやすい、楽しい、便利な街にしていきたい。本日も、委員の皆様から忌憚ない御意見等を頂きたい。

2. 交代構成員の紹介

- 事務局から、資料1「協議会名簿」に沿って紹介。対象委員は全8名。

3. 議題

（1）平成25年度事業活動報告について

- 事務局から、資料2「平成25年度事業活動報告」に沿って報告された。
- 審議の結果、特に異議なく、本件は承認された。

（2）平成25年度収支決算報告について

- 事務局から資料3「平成25年度事業決算報告」に沿って報告された。
- 次項の監査報告の後、審議の結果、特に異議なく、本件は承認された。

（3）監査報告について

- 会計監事清水信博氏（上越商工会議所青年部前会長）より、平成25年度の収支決算について監査の結果、適正に処理され且つ正確であるものと認める旨報告がなされた。

（4）役員改選について

- 議長の提案により事務局から、①上越市が策定した中心市街地活性化プログラムのソフト事業を事業実施者が推進するにあたって、当協議会は関係者との情報共有と協議を行う場とする役割をもっていること ②主要プロジェクトである、あすとぴあ高田やイレブンプラザなどの国の補助金を受けた事業に関して、当協議会も効果検証を行う役割があること、を理由に事業経緯等を理解し

ている役員が継続して就任する必要があるとして、次のとおり役員改選案が提示された。

- ・会長は、上越商工会議所副会頭、佐藤様の再任。
 - ・副会長 2名のうち 1名は、同会議所小売商業部会部会長、大嶋様の再任。もう 1名は、直江津商店連合会会長、渡辺様（前任の重原様から交代）の新任。
 - ・監事 2名は、従来どおり上越商工会議所の青年部及び女性会から選出するものとし、青年部会長、佐藤様（前任の清水様から交代）の新任と女性会副会長、熊田様の再任。
 - ・運営委員は、資料 1「協議会構成員表」の運営委員会欄記載の全 18 名。
- 審議の結果、特に異議なく事務局案どおりとして選任。

(5) 2核（イレブンプラザ・あすとびあ高田）の開業 1 年後のアンケート調査の結果報告について

- 事務局より、資料 4「アンケート調査報告書」に沿って、説明。

(6) その他

- イレブンプラザの状況について、事業者の㈱イレブンビルから報告。
- ・開業から 1 年 3 か月が経過。テナント営業面での消費増税の影響は軽微。
 - ・人が集まる、人を集めることで、テナントの売上高もアップ。
 - ・商店街でも、イベント時にお客様を待っているのではなく、店頭にワゴンを出して販売するなど売る努力が必要だろう。
 - ・空き区画（1 区画）については、出店合意書を 6/28 付けで締結。現在、内装工事など詳細を詰めているところ。数日中にも契約を取り交わす見通し。
- あすとびあ高田の状況について、事業者の三井企画㈱から報告。
- ・2 階のテナントが決まっていないのが最大の課題。
 - ・これまで物販など引き合いがあった。
 - ・医療系のテナントを求めており、誘致に向け鋭意進めているところ。
 - ・医療系が難しい場合、他の違った業種を誘致する考えもある。
- 服部アドバイザーから、当市中心市街地活性化に関する助言等を頂いた。
- ・高田地区は、2 核の完成により、個店の魅力向上による商店街全体の活力創出が重要課題となっており、この点を重点にアドバイスしていく。
 - ・直江津地区は、民間活力の誘発や低未利用地の有効活用、街なか居住の推進が課題と考える。全国の事例等を踏まえ、適切にアドバイスしていく。
 - ・商店街活性化のキーワードは、個店の魅力アップ。高田・直江津両地区で繁盛店づくり研修（全国商店街支援センターの事業）が開始。本町商店街の逸品創出事業に対しても支援していきたい。
 - ・協議会については、中心市街地活性化の取組に関する信頼性や持続性を保つためにも、会議における委員の意見や提言は必要。会を残すことで、新しい中活法での計画認定をいつでも申請できる状態になる。そのようなことから、組織として今後も続けていっていただきたい。

以 上